

# 防疫バッグを応用した高病原性鳥インフルエンザ発生時における防疫作業方法の検討

中丹家畜保健衛生所

○西田寿代 宮城信司 大谷健太 寺石武史

【はじめに】府内発生の経験を踏まえ、これまで、防疫作業動線、捕鳥台、2階からの殺処分鶏の搬出方法の検討、焼却試験など実践的な防疫訓練を実施。今回、訓練を通して課題であった密閉容器への詰替作業の対応として、牛などの大型殺処分家畜輸送のために産学公で開発した防疫バッグを応用した鶏の詰替作業及びその焼却処分について検証した。【方法】採卵鶏15万羽を飼養する農場で廃鶏622羽を用い、捕鳥、運搬、ガス殺、鶏舎外へホイルローダーで搬出、防疫バッグへ収容、車に積込、場外搬出をした。その防疫バッグを常温で4日間保管し、当所で焼却した。【結果】詰替作業は、ホイルローダーの活用で搬出作業の停滞が解消し、防疫バッグの活用で密閉容器の利用に比べ作業人数の削減、労力低減、時間短縮などが向上した。また、防疫バッグ1個あたり約300羽（約600kg）の収容が適当と考えられ、4日間の保管で防疫バッグに異常は認められず、当所焼却炉では問題無く完全燃焼した。【まとめ】防疫バッグの応用は、高病原性鳥インフルエンザ防疫作業においても有効であり、全国に向け情報提供。移動式レンダリング装置などの利用を想定することで、大規模での発生時においても迅速な対応が可能であると考えられた。今後、迅速な防疫措置に向けて、実践的な防疫演習を重ねていきたい。